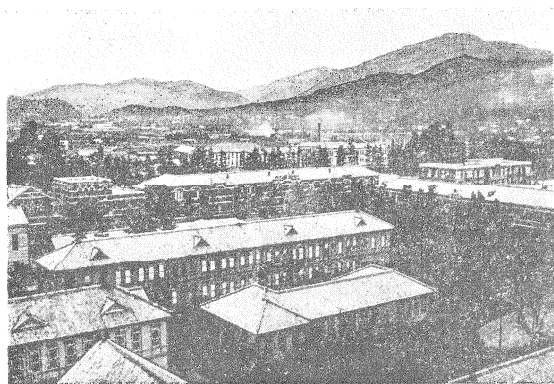


京都帝國大學文學部三周年史

正 誤 表

頁	行	誤	正
一一	三	文部省令第一〇五號	文部省令第一〇號
二三	一一	文學部	文科大學
四七	二	四十三年	四十四年
同	六	四十四年	四十五年
四八	五	學績	事績
六〇	一一	ところである	ところである
六四	五	その原本を	その原本の
七〇	一〇	五冊、大正九年十月	五冊大正九年十月。
七一	一四	圖録に收めて	六字削除
一四七	七	學生の紹介	學説の紹介
一六〇	八	樋口波、禰太郎	樋口津、禰太郎
一七六	一三	自分へ傳達し	自分へ傳達を
二八四	二	一部五冊(和装)	一部四冊(和装)

學大國帝都京  
史年周十三部學文



年十和昭

## 序

わが京都帝國大學文學部が、明治三十九年九月、京都帝國大學文科大學として開設せられてより、今昭和十年を以て創立第三十年を迎ふるを機とし、十一月二十三日、學部創立より現在に至るまでの關係者一同本學に參集して祝賀の式を擧ぐると共に、記念講演、記念出版、各教室に所藏する稀觀圖書の展觀、陳列室の開放、物故教官の追遠等の事を行ひ、併せて各科學會の研究發表、卒業生の大懇親會などを開催しようとしてゐる。此等の事業の一として、木史の編纂が計畫せられたのである。その企圖するところは、學部創設當時に於ける先覺諸學者の苦心を尋ね、本學部發展の迹を辿つて、今日の盛時の來る所以を明かにせんとするにある。もとより短時日の間に成れる小冊子であるから、繁簡整はざるものあるがなほ

所期の一端を達したに遡いと思はれる。讀者が本史によつて懷舊の情を新にし、また今後の發展に資する所あるを得ば幸である。

本史編纂の事は、本學部國史研究室において行ひ教授西田直二郎、講師藤直幹、助手柴田實、副手時野谷勝、同内藤晃の諸氏が事にあたり、本史の記録、諸教授等の談話に據り編述したものである。なほ題簽は本學名譽教授狩野直喜博士を煩はし本史を飾るを得た。こゝに謹んで深甚なる謝意を表し度いと思ふ。

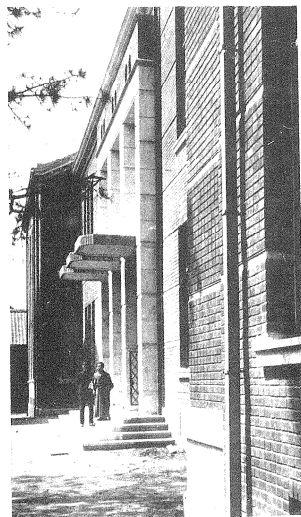
昭和十年十一月



室務事部學文



館列陳部學文



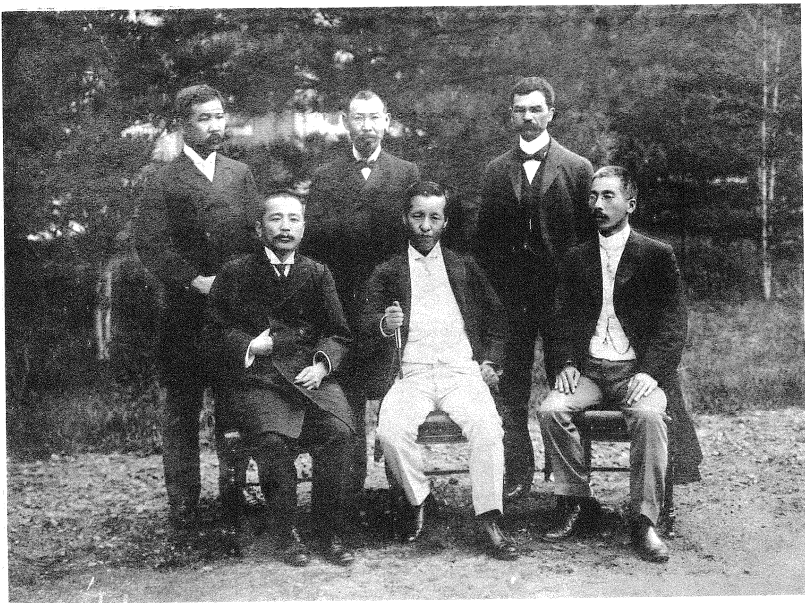
館號一第部學文



（月一十年一十五大） 啓行下陸后皇



木下總長



開設當初の授教





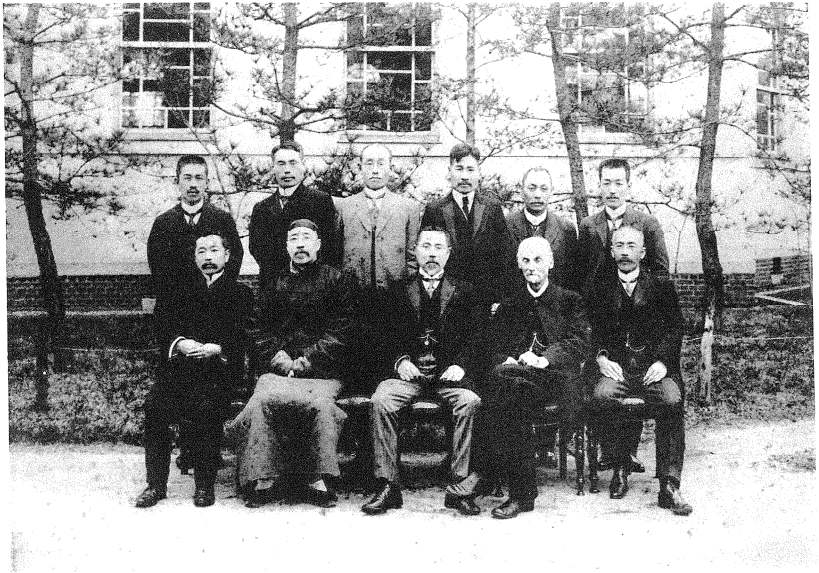
(饗應生業卒年二十四治明) 生業卒の初撮



(觀懇部樂俱大京年八和昭) 生業卒の時近



(月三年十四治明) 講來授教ドツラ



(月二年五十四治明) 學來授教スイセ



心理學實驗室



考古學陳列室